

受講
無料

51回

格差問題への福祉実践からのアプローチ

～ 支援・サービスギャップへの挑戦 ～

TOHOKU FUKUSHI UNIVERSITY

実学臨床研究

セミナー

※ 本学大学院総合福祉学研究科社会福祉学専攻の授業科目としても開講されています



■ 開催日時 2025年 11月27日(木) 18:30 - 20:00

■ 受講方法 Zoomオンライン開催 ※ Zoom情報は開催2日前より送付します

■ 申込方法 Web専用サイト(Peatix)より登録 <https://jitsugaku-seminar25.peatix.com/view>

11月27日(木)12時までにお申込み下さい



不登校支援、特別支援教育実践の現状

■ テーマ趣旨

現在少子化は44年連続で進行し、出生数の落ち込みには歯止めがかかりません。子どもの減少は子育てや指導に手をかける大人の比率が高くなるということです。本来は「手厚い子育て・指導」ができるということになります。ところが、子どもを取り巻く様々な課題は一向に改善されず、いじめの認知件数、児童虐待、小中高校生の自殺者数は過去最高となっています。これらと相まって増加している問題が不登校です。適期に教育を受けることができない状態が継続するということは、進路や将来の社会生活の幅は狭くなり、それはすなわち人生の格差を引き起こします。今回は不登校を取り巻く現状とそれを解決するために行われている取組を紹介したいと思います。

■ 講師紹介

大西 孝志(おおにし・たかし)

東北福祉大学教育学部教授 特別支援学校教諭や小学校等で支援が必要な子どもの教育に当たることを目指す学生の指導を行っている。仙台市就学支援委員会委員長、宮城県特別支援教育将来構想審議会委員、東京都特別支援就学支援委員会副委員長等を歴任。聴覚障害教育、言語障害教育、特別支援教育について、自身の特別支援学校教員経験を元にした視点で情報発信に努めている。近年は不登校問題、学校における性的マイノリティの問題にかかわっている。

■ 福祉実践・実践研究への手がり

近年、不登校の急増に伴い、何が何でも教室でみんなと授業を受けることが必ずしも正解という考えは弱まり、空き教室等を利用した校内教育支援センターに自治体が支援員を配置する等の取組も進められています。また、「学びの多様化学校」といった新しい形の不登校対策も積極的に進められるようになりました。子どもが大人になるためには、人とつながっている、居場所があるということが基本になります。不登校自体の原因、解決方法は明確になっていませんが、一人一人の実態把握を丁寧に行い、個別の計画を作成するということが大切であり、ここには特別支援教育の手法と相通ずるものがあります。

■ キーワード

不登校 学びの多様化学校 特別支援教育

■ 企画 TFU実学臨床研究セミナー実行委員会



東北福祉大学
Tohoku Fukushi University

【お問い合わせ】

TFU実学臨床研究セミナー実行委員会 事務局
(実習支援センター 実学臨床教育推進室内)
TEL 022-717-3359 FAX 022-301-1293
E-mail kenkyu-seminar@tfu.ac.jp
※平日8:30～17:30(土日・祝日不在)

次回(52回)のお知らせ

日時 12月18日(木) オンデマンド配信